

青森県・私立東奥義塾高校

## 客観的な学力指標による進路指導

「行きたい大学」を目指す生徒を育て、指定校制選抜に  
おいても、志望校に求められる学力を身につけさせる



### 学校概要

- ◎設立 1872 (明治5) 年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年定員 320 人
- ◎2021年度入試合格実績 (現浪計) 国公立大は、北見工業大、北海道教育大、弘前大、東北大、筑波大、埼玉大、東京学芸大、青森県立保健大、青森公立大などに 53 人が合格。私立大は、弘前医療福祉大、弘前学院大、東北学院大、青山学院大、東京理科大、明治大などに延べ 138 人が合格。

### 変革の背景

指定校制選抜の枠にとらわれずに、  
将来の可能性を考えさせたい

青森県弘前市の南部に位置する私立東奥義塾高校は、CⅠコース (特別進学コース)、CⅡコース (グローバル人材育成コース)、Bコース (総合コース) の3コースから成る。CⅠコースは、国公立大学を志望し、一般選抜を受験する生徒が中心だ。一方、他の2コースでは、大学進学希望者の大半が、指定校制による学校推薦型選抜 (以下、指定校制選抜) を希望する。高校生活や定期考査での地道な努力を評価し、学校は生徒を推薦するが、実

際は、その大学に見合った教科学力が身につけていないことが少なくなかった。入学前に大学から出された事前課題に担任の支援を受けながら取り組む生徒や、大学入学後、授業についていけず、留年や退学をしてしまう卒業生もいた。広報渉外部長 (前進路指導部長) の柘植将夫先生は、次のように語る。

「指定校制選抜で合格する大学数の多さは、本校の特徴として地域に浸透しており、それを理由に本校を志望する中学生も少なからずいます。ただ、指定校制選抜で大学に入学しても、退学をしてしまったら、希望進路をかなえられたいとは言えません。大学での学びに対応できる力を身につけさせるとともに、途中で困難があったとしても学び続けたいと思

える大学に進学できるよう支援することが必要だと感じました」

指定校制選抜がある大学の中から志望校を選ぼうとする生徒に、もどかしさを感じる場面もあった。

「生徒には、『行ける大学』ではなく、『行きたい大学』を目指してほしい。将来の夢の実現や目標の達成につながる大学・学部を選択し、大学での学びに必要な学力を高校ですっかり身につけ、大学生活を意欲的に送る。そのためにはまず、進路指導を変えようと考えました」 (柘植先生)

そこで同校は、2019年度から、全国規模のアセスメントを全コースで導入し、客観的な学力指標を軸にした進路指導を始めた。

図1 アセスメントの事後指導で生徒に配布している、各ゾーンの目安となる大学群についての資料

GTZ (学力)	国公立大	私立大
S1	東京大・京都大・一橋大	—
S2	大阪大・東京工業大	早稲田大・慶應義塾大・国際基督教大
S3	東北大・東京外国語大・国際教養大・名古屋大	上智大・同志社大
A1	千葉大・筑波大・北海道大・横浜国立大・東京農工大	明治大・青山学院大・中央大・立教大・東京理科大
A2	埼玉大・東京都立大・横浜市立大・東京学芸大	法政大・明治学院大・立命館大・学習院大・成蹊大
A3	山形大・岩手大・弘前大・福島大・秋田大	駒澤大・北里大・文教大・専修大・順天堂大
B1	岩手県立大・青森公立大・秋田県立大・会津大・琉球大	東北福祉大・日本大・東北芸術工科大・東洋大
B2	長岡造形大・秋田公立美術大・公立はこだて未来大	東北学院大・宮城学院女子大・東北医科薬科大・東海大
B3	筑波技術大	尚綱学院大・東北文化学園大・仙台大・盛岡大
C1	—	東北芸術工科大・東北生活文化大・城西国際大・奥羽大
C2	—	ノースアジア大・石巻専修大・青森大・郡山女子大
C3	—	富士大・千葉経済大・作新学院大・中央学院大
D1	—	—
D2	—	—
D3	—	—

※学校資料を基に編集部で作成。

## 変革の一手

アセスメントを活用した、生徒の視野を広げる先進事例を参考に指導方針を転換

指定校制選抜で大学に進学する生徒の学力と、その大学で求められる学力との間に差が生じていた一因には、校内選考での判断材料の少なさがあった。

同校では、一般選抜を受験するCⅠコースは模擬試験を受験していたが、CⅡ・Bコースでは受験していなかったため、客観的な学力指標がなく、指定校制選抜の校内選考では、評定平均値を主な判断材料とせざるを得なかった。そのため担任は、「あの生徒は、A大学の出願基準の評定平均値に達している。普段の学習も地道に努力しているから大丈夫」などと、生徒を推薦していた。そうした進路指導の転機となったのが、18年度、当時進路指導部長だった柘植先生が参加した、盛岡市で行われたベネッセ主催の私学研究会だった。

「大阪府の私立高校が、GTZ（\*1）を活用して生徒の可能性を見だし、それを生徒自身に気づかせて進路選択の視野を広げていると聞き、それこそが本校に必要な視点だと気づきました。定期考査の結果を基にした評定平均値だけでなく、生徒の総合的な教科

学力を把握することが必要であり、生徒が志望校から求められる学力と自身の学力との差をつかむ上でもGTZは有効だと考え、早速、全コースでのアセスメントの実施を職員会議で提案しました」（柘植先生）

進路指導にアセスメントを活用することへの教師の不安を解消するため、柘植先生は、先進校の取り組みと成果を、資料を用いて説明し、アセスメントの活用が進路指導に必要なことを伝えた。19年度に「高校生のための学びの基礎診断」が始まったことも後押しとなり、19年4月から全コースでアセスメントを実施することになった。

生徒の学力と大学で求められる学力の差を、色分けした一覧表で可視化

アセスメントは、4月と11月の年2回、CⅠ・Ⅱコースは「スタディレポート」、Bコースは「基礎力診断テスト」（\*2）を実施している（CⅠコースは、進研模試も実施）。

事前・事後指導も、全校体制で行っている。事前指導では、アセスメント実施の前月に、「Classi」（\*3）で出題範囲の学習動画を配信し、付属の事前課題に取り組ませて、担任が状況を確認。その上で、教科担当が、授業で事前課題の重要ポイントを解説し、質疑応

\*1 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」の15段階で評価される。 \*2 ベネッセのアセスメント「進路マップ」の1つで、義務教育範囲も含めた基礎学力を測るマーク式テスト。 \*3 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。

答を行う。事後指導では毎回、学年ごとに集  
会を開き、学年全体の学力状況を伝えるとと  
もに、結果帳票の見方やG T Zの意味を説明  
して、アセスメントの振り返りと志望校選択  
への活用を促している。進路指導部長の今井  
偉之先生は、次のように述べる。

「G T Zのゾーンごとに、合格を目指せる  
大学を目安として示しました（P. 29 図1）。  
生徒が自分のG T Zと比べられるようにし、  
指定校制選抜の枠にとらわれずに自分が学び  
たい学問から大学を選び、より高い目標を目  
指す意欲を喚起させることがねらいです。指  
定校制選抜を希望する生徒には、志望校が求  
める学力レベルを知り、それに見合った学力  
を身につけるよう指導しています」

教師の意識改革にも、客観的な学力指標を  
活用した。指定校制選抜合格者のG T Zを一  
覧表にし、合格した大学の目安となるG T Z  
より3ランク以下の場合が赤、2ランク下は  
紫、1ランク下はピンク、同等または生徒の  
G T Zの方が上の場合が黄にし、全体の状況  
がひと目で分かるようにした。

アセスメント導入初年度の19年度の3年生  
では、赤中心の表になり、合格した大学が求  
める学力に達していない生徒が多いことが分  
かった。それを職員会議で説明すると、「進  
学先に応じた学力を生徒に身につけさせる必  
要がある」「生徒が志望校を深く知った上で

選択できるようにしよう」といった声が教師  
から上がり、客観的な学力指標を活用した進  
路指導につながった。その結果、20年度の指  
定校制選抜では、生徒の学力と進学先の目安  
となった学力の乖離が減少し、3ランク以上差  
があった生徒の数は半減した。

「面談等で、『G T Zが志望校の求める水準  
から2ランクも離れている。部活動だけでな  
く、学習にも力を入れよう』というように、担  
任が生徒に、自分の学力を意識して志望校を  
検討するよう、G T Zを使って促した結果だ  
と考えています。生徒は、志望校を再考したり、  
志望校が求める学力を身につけられるよう努  
力したりするようになりました」（柘植先生）

### 地域課題をテーマとした探究学習を 通じて、将来への視野を広げる

生徒が社会を知り、進路をより広く考えら  
れるよう、20年度には、「総合的な探究の時  
間」を「シンカTIME」と名づけ、地域課  
題と自分の希望進路を結びつける探究学習を  
始めた。例えば、Bコースでは、1・2年次に、  
生徒が様々な社会の課題を知り、探究学習の  
テーマを探すことを目的とした、全6回の基  
礎講座を設定。教頭や進路指導部長など、6  
人の教師が、「電気自動車」「健康（短命県返  
上）」など、自身の専門分野と地域課題、そ



進路指導部長  
**今井 偉之** いまい・ひでゆき  
教職歴16年。同校に赴任して17年目。  
数学科。



広報渉外部長（20年度進路指導部長）  
**柘植 将夫** つげ・まさお  
教職歴20年。同校に赴任して21年目。  
英語科。

してSDGsを関連づけたテーマで授業を行  
う（図2）。生徒は、すべての講座を受けた  
上で、自分が関心を持った分野における地域  
課題の視点で探究するテーマを設定し、イン  
ターネットなどを使って調べ学習に取り組  
む。そして、2年次の2学期には、調べた内  
容を活用しながら、志望理由書を作成する。  
『シンカTIME』は、他コース・他学年  
の教師とのチーム・ティーチングとしていま  
す。普段あまりかかわりのない教師と交流し、  
多様な人生観に触れることで、生徒の視野を  
広げることがねらいです」（柘植先生）

## 変革の成果・展望

担任以外の教師や部活動の顧問にも  
アセスメントの意義が浸透

全校でアセスメントを導入して2年が経



図2 Bコースの2021年度「シンカTIME」基礎講座の内容

テーマ	概要	関連するSDGs
電気自動車	今後、世界的に電気自動車の普及が加速すると予想されるが、いまだに課題も多い。電気自動車のメリットとデメリットを理解し、今後の普及について考察する。	目標8 働きがいも経済成長も、目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう、目標13 気候変動に具体的な対策を
健康 (短命県返上)	1年次:自分や家族の生活習慣を見直すために自分を知る。 2年次:短命県返上のために、自分にできることを考える(職業選択へのきっかけづくり)。	目標3 すべての人に健康と福祉を
1年次:生きる、 2年次:働く	1年次:変化の激しいこの時代をしなやかに美しく生き抜いていくためには何が必要なかを考える。 2年次:働く上で大切なことを考える。	目標3 すべての人に健康と福祉を、目標4 質の高い教育をみんなに、目標8 働きがいも経済成長も
「おやさいクレヨン」 (*4)から見る 県内企業の 取り組み	「おやさいクレヨン」の開発・販売の事例について知り、SDGsに基づいた県内の取り組みを通じて、自分の将来を考える。	目標2 飢餓をゼロに、目標8 働きがいも経済成長も、目標11 住み続けられるまちづくりを、目標12 つくる責任 つかう責任
進路選択と SDGs	1年次:探究マトリクスを用いて1つのテーマを「現在・過去・未来」と「5W1H」をかけ合わせて分解。そこに浮かび上がる素朴な疑問を大切に、探究課題を設定する手がかりとする。 2年次:例えば、人の命を救うという夢をかなえられる仕事は、医療系に限らずたくさんある。それらの仕事について知り、自分はどのような形で「人の命を救いたい」のかを掘り下げる。	目標1~17
職業選択に ついて	[問いかけ] 自分の適性を理解し、その職業が自分に向いているかをよく考える。将来的な成功が見込める業種なのか、家族の理解は得られるのか、その仕事で家族を一生養っていく覚悟はあるのか、好きな仕事なのか、近々の目標と将来的な目標はあるのか。	目標8 働きがいも経済成長も

\*学校資料を基に編集部で作成。

ち、客観的な学力指標を軸とした進路指導は全コースに浸透した。アセスメントの受験当日は、試験監督を務める担任の支援として、担任以外の教師も率先して見回りをするなど、協力してくれる風土ができた。さらに、部活動の顧問がアセスメントの受験前に、部員を集めて学習会を開いたり、事前課題の取り組みを促したりするようになった。

「アセスメントは、試験科目である5教科の教師だけに関係すると思われがちですが、生徒に真剣に取り組ませるためには、全教師で働きかけることが重要です。『部活動に加えて、学習にもしっかりと取り組もう』と声をかける部活動の顧問が増え、学校全体で積極的に学力向上を支援していく機運が高まっています」(今井先生)

生徒の意識にも変化が表れ始めた。部活動に力を入れてきた生徒が、志望校に見合った学力をつけたい一心で学習を頑張り、学力を大幅に上げた。客観的な学力指標を得たことで、努力が結果に結びつくことを実感することができていたのだ。

指定校制選抜にとられずに、自分の目標を見いだす生徒も増えている。19年度大学入試では、Bコースから弘前大学のA0入試(現、総合型選抜)に7人が出願し、4人が合格した。Bコースの生徒が国公立大学のA0入試にチャレンジしたのは初めてであり、なおかつ結果も出したのだ。20年度大学入試では、Bコースから15人が弘前大学の総合型選抜に挑戦した。GTZを進路選択の指標にすることで、生徒は自分もさらに高い目標を目指すのではないかとという自信や期待を持つようになった。

今後の課題は、アセスメントの結果を教科担当の教師が受け止め、授業改善に生かしていくことだと、柘植先生は語る。

「志望校が求める学力を生徒に身につさせる授業の実践が、教師の責務だと考えます。アセスメントの結果は、教師の指導に対する評価でもあるといった意識を持ち、うまくいかないこともあります。改善のために日々努力を続けたいと思います」

\*4 米油とライスワックスをベースに、野菜を原材料にして着色したクレヨン。小さな子どもが安心して遊べるようにと、青森県在住のデザイナーが開発した。